

## 別府温泉 「突き湯第一号」 解明

馬場町（会員） 外山 健 一

はしがき

別府八湯から成る大別府温泉郷は現在、源泉孔数においては二八四二孔を有し、世界第一位を誇っている。加えて、温泉湧出量でも、米国のイエローストーン（ワイオミング州国立公園内）の温泉に次ぎ世界第二位である。

別府温泉は古来、自然湧出泉が主流を占めていたが、明治の初め頃に井戸掘りの技術を応用した人工掘削が行われるようになり、にわかには源泉孔数が増加した（昭和八年刊『別府市誌』参照）。

これまで別府温泉で掘削の第一号について、年代では明治十二年説と同十二年説とがあった。さらに温泉掘削の場所（地点）についても、別府村仲町の万屋呉服店の屋敷内説と同村流川通りの万屋旅館の宅地内説の二説があった。

そこで、本稿では、別府温泉における「人工の突き湯第一号」の真相を探ってみることにした。

### 一 別府村流川通り万屋旅館説の解明

別府郷土文化史研究会代表の志多摩一夫著になる『別府今昔風土記』（昭和五十二年刊）には、明治時代から大正時代にかけて、当時の流川通りで木造四階建ての万屋旅館を営んでいた神澤儀助が、明治十二年四月、初めて井戸掘りの技術を駆使して「突き湯第一号」を行ったという旨の記述が見られる。

しかし、これには二つの疑問点がある。

一つは、町村制施行の年の明治二十二年五月二十三日、当時の別府村長高倉駒太が実施した調査資料では、村内に「内湯」がある旅館は次のとおりである。

米屋旅館・府内屋旅館・若松屋旅館・天満屋旅館・国東屋旅館・佐伯屋旅館・煙草屋旅館・中津屋旅館・筑前屋旅館・まるか旅館・新湯前旅館・阿川屋旅館・住吉屋旅館・豊前屋旅館以上十四軒

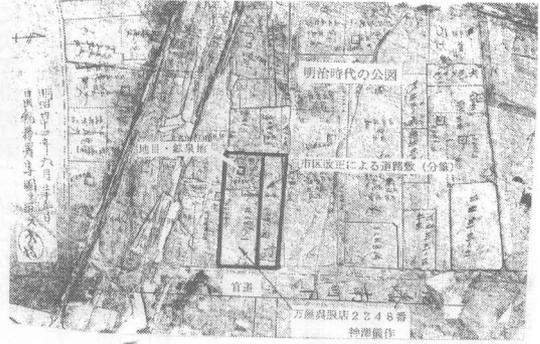
流川通りの万屋旅館は、この調査結果には含まれていないのである。

もう一つの傍証として、この万屋旅館の創業は「明治三十二年一月二十五日」と登録されている（大正九年「別府市旅館能力調査票」）。

万屋呉服店・万屋旅館立地図



明治44年万屋呉服店立地公図



従って当該旅館は、明治十二年または同二十二年のいずれにおいてもまだ創業していないという事実が判明した。

## 二 別府村仲町万屋呉服店説の解明

これには二説がある。『温泉権の研究』（中尾英俊氏の論稿）、さらに「別府温泉歴史年表」（堀藤吉郎氏の作成）では明治十二年説を採っている。これに対し、『別府市誌』（昭和六十年版別府市刊）は同二十二年仲町万屋呉服店神澤又市郎説を採用している。

両説のいずれが正しいのか。結論から述べると、別府保健所（現在、中央保健所に改称）「温泉台帖」の登載記録によれば、別府村の「突き湯第一号」の掘削者は、明治十二年の別府村仲町（現在・秋葉町）字太呂邊二二四八番地、万屋呉服店の戸主、神澤儀作（当時五十一才）となっているので、十二年説を正しいとすべきであろう。

なお、「別府市誌」は「神沢又市郎説」に補なって「儀助との説もある」としているが、神澤家の承諾を得て調査した戸籍謄本によれば「儀助」は儀作の祖父で、江戸時代に生まれた人であり、すでに鬼籍に入っている。

また儀作の長男で後の初代市長、神澤又市郎は、まだこの

時わずかに十五才であったから掘削の当事者たり得ない。  
 ここで余録であるが、神澤又市郎の祖父、神澤儀右エ門は何でも丹波の山中から呉服反物を担いで当地にいち早く商いあきなに来て居を構えたそうで、代々「万屋」という別府一古い呉服店を開いたと関係者は語っている。

土地登記簿

儀作は財力もあり、また先代は呉服反物の行商人であったことから、全国の情報の入手も他の者より容易であったのであろう。

千葉県君津市に始まったという「上総井戸掘り」の情報もいち早く知り得たと考えられる。そこで、この上総地方の井戸掘り技術を温泉源掘削の「突き湯」に応用したわけである。  
 ちなみに「突き井戸」の技法は、文化十四年（一八一七）上総（千葉県君津市）出身の池田久蔵、孫久吉が井戸掘りの

ため鑿井業を起こしたのが最初であり、当時の記録では深度約二十間（三十六メートル）ほど掘削したと記録されている『上総掘り解説書』千葉県立上総博物館刊）。

あとがき

別府温泉最初の「突き湯」の沿革については、かつて昭和三十年代の初め頃、明治末期から大正期にかけて、市区改正事業に従事したことのある安部傳一郎氏（故人）に話を伺ったことがある。また神澤又市郎の妻、神澤キワさんの親族、板東四郎氏（別府市在住、現在八十八才）にも話を伺ったが、「別府村仲町神澤呉服店が別府で一番最初に突き湯を行った」という事実を記憶しておられた。

本稿作成に当り、神澤家関係者のご協力と貴重な家系図まで提供してご教示を下さり、また別府保健所では「温泉台帖」を閲覧させていただき、また別府市課税課では貴重な保存資料まで探して提供して下さったことに対しても、ここに厚く御礼を申し上げます。

（参考文献）

「別府町旅館能力調査票」（大正九年 別府町）

